

とよはらくにちか

豊原国周生誕 190 年

歌舞伎を描く—秘蔵の浮世絵初公開！

会 期：2025 年 1 月 25 日(土)～ 3 月 23 日(日) *浮世絵版画は総入れ替え

前期：1 月 25 日(土)～2 月 24 日(月・振休) 後期：2 月 26 日(水)～3 月 23 日(日)

会 場：静嘉堂@丸の内（東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治生命館 1 階）

主 催：静嘉堂文庫美術館（公益財団法人 静嘉堂）

開館時間：10:00～17:00（入館は閉館時間の 30 分前まで）

夜間開館=毎週土曜は 18 時まで、2 月 19 日(水)、3 月 19 日(水)、21(金)は 20 時まで

休 館 日：月曜日、全館停電 2 月 2 日(日)、2 月 25 日(火)

※2 月 10 日(月)、24 日(月・振休)は開館

入 館 料：一般 1,500 円 大高生 1,000 円 中学生以下無料

障がい者手帳をお持ちの方(同伴者 1 名〈無料〉を含む) 700 円

毎週木曜日は

★トークフリーデー★

HP: <https://www.seikado.or.jp/> X: @seikadomuseum Instagram: @seikado_bunko_art_museum

お問合せ：電話 050-5541-8600（ハローダイヤル）



(広報用画像 1)

豊原国周
「極楽寺山門の場」
五世尾上菊五郎の
白浪五人男の内弁
天小僧菊之助
大判錦絵三枚続
明治 22 年(1889)

【展覧会概要】

静嘉堂では、三菱二代社長・岩崎彌之助（1851～1908）の夫人・早苗（1857～1929）が愛玩した「錦絵帖」を多数所蔵しており、1996 年『静嘉堂文庫の古典籍 第二回 歌川国貞展—美人画を中心に』で主要作品を紹介しました。以来、国貞の美人画コレクションは、高く評価されています。

本展では、美人画と並ぶ浮世絵の二大ジャンル・役者絵に注目します。近世初期風俗画の優品「歌舞伎図屏風」を皮切りに、初期浮世絵から錦絵時代を経て明治まで、役者絵の歴史をたどります。幕末明治は浮世絵円熟期、歌舞伎界では「団菊左」の時代です。浮世絵界の重鎮・国貞でなければ描けない密画の肉筆画帖「芝居町 新吉原 風俗鑑」、その弟子で明治の写楽と称された国周らの、今摺ったように美しい錦絵帖を初公開いたします。歌舞伎を描いた多彩な絵画を静嘉堂コレクションでご堪能下さい。

【展示構成】

第一章 歌舞伎の流れ

広義の歌舞伎を描いた絵のはじまりは、慶長年間（1596～1615）、京都で阿国歌舞伎が流行した頃と軌を一にするとされます。やがて江戸でも芝居興行が始まると、演目や配役を知らせる木版墨摺りの芝居番付が登場します。程なく墨摺りに手彩色が施された「丹絵」や「漆絵」が、次いで紅色、草色を中心に三版で表現した「紅摺絵」の手法で、役者が見得を切った姿などが表現されるようになります。そして明和2年（1765）、「錦絵」（多色摺木版画）が誕生すると、憧れのスターが色鮮やかに表現されるようになったのです。それまで形式的であった役者の容姿は似顔で描かれはじめます。また浮世絵師も鳥居派だけでなく勝川派や歌川派などが台頭し、切磋琢磨します。役者絵は歌舞伎役者のプロマイドだと言われますが、寛政年間（1789～1801）を中心に、勝川派や東洲斎写楽、初代歌川豊国、国政らによって、役者の胸から上を捉えた大首絵の優品が次々に生み出された他、画題のバリエーションも広がりました。本章では、静嘉堂の浮世絵版画一枚物のコレクションによって木版技法の発展の歴史をたどりつつ、役者絵の流れを御覧ください。

第二章 珠玉の錦絵帖

幕末明治期、「錦絵」（多色摺木版画）の彫・摺の技術は最高潮に達します。錦絵界は、歌川派の全盛期、歌川国貞は三代歌川豊国を名乗り、錦絵界の重鎮となりました。版元たちも競って趣向を凝らしたシリーズ（揃物）を企画します。三代豊国の弟子・国周や、国芳の弟子・芳幾らは写真の時代を意識した斬新な役者絵を生み出します。また役者見立絵とよばれる、架空の舞台を役者似顔で描く作品も版行されました。さらに舞台が先か、錦絵が先か、といわれるほどに、芝居の舞台と浮世絵は親密な関係となります。有名な白浪五人男の弁天小僧は、三代豊国の錦絵に触発されて脚本が創られ、五世尾上菊五郎（1844～1903）の当たり役となったのです。本章では、岩崎彌之助の夫人・早苗が愛玩した錦絵帖より、国貞（三代豊国）、初代豊国、国芳、芳幾、二代国貞、そして国周と、歌川派の役者絵を御覧いただきます。版元が摺りたての錦絵を折帖にして納めたとも言われるこれらの画帖は、冒頭に版元：具足屋の仕掛絵があったり、明治の名優・五世菊五郎の似顔が多数納められるなど興味深い特徴もあるのです。

第三章 明治の写楽・豊原国周

本年は国貞の弟子で明治の写楽と讃えられた豊原国周の生誕 190 年となります。錦絵帖を繰っていくと目を惹くのは、国周が五世尾上菊五郎を三枚続一人立の水彩画のような色彩で描いた明治 20 年代の作です。これらは福田熊次郎（人形町具足屋）から版行されています。国周は左団次と五世菊五郎を最真にしていたそうですが、国周、菊五郎、具足屋のトリオで版行された錦絵は、いずれも丁寧に作られています。そしてこのトリオは国周の集大成、明治 26 年（1893）から翌年、わずか 2 年足らずで菊五郎の当たり役を百枚揃で描いた「梅幸百種」に結実するのです。国周は「生来任侠にして奇行に富む」「妻を離別すること 40 人以上、転居実に 83 度」「一男二女ありしも画系を継がず、門人数名あり」という宵越しの金は持たないような、まさに江戸っ子気質の人だったといえます。明治になっても役者絵を描き続けた国周の錦絵は、観劇しているかのような心地がする、芝居も役者も知り尽くした歌舞伎ファンにはたまらないものであったといえるでしょう。

第四章 歌川国貞の肉筆画帖

極彩色で細密に描かれた「芝居町 新吉原 風俗絵鑑」は、江戸の二大歓楽街である芝居町と新吉原の情景を 6 図ずつ、合計 12 図とした大画面のアルバムです。芝居町の 6 図は絵巻のように展開し、市村座の前に人が集まる情景、開幕を待つわくわく感を描いた情景、「車引」の舞台、楽屋の様子、「浅間ヶ嶽」の舞台、興行が終わり皆で宴会する様子、と歌舞伎小屋での魅惑の一日を網羅した、歌舞伎ファンにはたまらない画帖です。これらは役者絵のバリエーションを網羅しているといっても過言ではないでしょう。新吉原も同様に、吉原遊郭での夢のような魅惑の一日を余すことなく描き切っています。本作は無落款ではありますが、その卓越した描写力などから、役者絵と美人画でならした国貞（三代豊国）以外に描ける絵師はいないとされ、現在では国貞の作とされています。幕末の江戸風俗画の極致を御覧ください。

3つの見どころ

① 歌舞伎を描いた絵の通史を静嘉堂コレクションで網羅できる！

近世初期風俗画

(広報用画像 2) 「歌舞伎図屏風」 紙本金地着色 二曲一隻 江戸時代前期(17 世紀)

一ややこ踊りの熱気



初期浮世絵

一素朴な味わい

役者絵の鳥居派

(広報用画像 3)
二代鳥居清倍
「二世市川団十郎
の佐野源左衛門、松本幸四郎
の青砥左衛門、
山下金作の佐野
女房難波津」
細判漆絵
享保 8 年(1723)



錦絵時代

一多色刷りの美

勝川派

勝川春泉
「三世大谷広次
の三浦弾正義村
と四世松本幸四
郎の佐野源左衛
門常世」
細判錦絵 二枚
続、天明 7 年
(1787)



大首絵

一ザ・フロマイド

歌川派

歌川国政
「尾上栄三郎
の曾我五郎」
大判錦絵
享和 3(1803)



出語図

一裏方さんあての

リアルな舞台！

鳥居派

(広報用画像 4)
鳥居清長
「三樹徳次郎の夕霧、
四世松本幸四郎の藤屋
伊左衛門」
大判錦絵
天明 4 年(1784)



報道各位

プレスリリース

憧れのスターの OFF 姿

一菊五郎の夏休み！

梅幸(菊五郎)自作
船の櫓を尾瀬ヶ岬へ沼津から
釣りに出汐も秋の常
思わぬ雨に濡浴衣
空も着かへて清らかな
六夜に月の涼しさに
波打蚊屋に寝釈迦山

(広報用画像 5)

豊原国周「五世尾上菊五郎の大磯禰龍館之図」

大判錦絵三枚続

明治 24 年(1891)



② 初公開！今摺ったような錦絵帖—国貞と国周（明治の写楽）

贅を尽くした

渾身の大首絵

幕末・国貞の

錦昇堂版

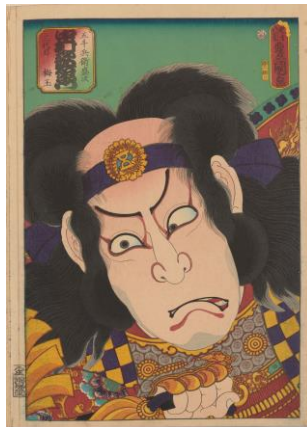
(広報用画像 6)

三代豊国(国貞)

「三世中村歌右衛門の五斗兵衛盛次」

大判錦絵

文久 3 年(1863)



VS



明治・国周の

人形町・具足屋版

(広報用画像 7)

豊原国周

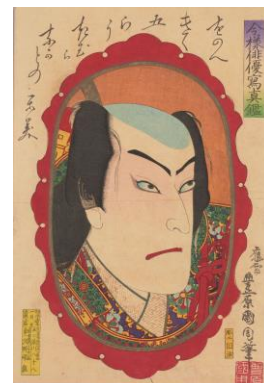
「五世尾上菊五郎の柴田勝家」

大判錦絵

明治 2 年(1869)



VS



右：三代豊国(国貞)「五世坂東彦三郎の仁木弾正」

安政 5 年(1858) 大判錦絵

左：同「今様押絵鏡」四世市川小団次の和尚吉三

安政 7 年(1860) 大判錦絵

豊原国周「今様俳優写真鑑」

五世尾上菊五郎の木村長門守

明治 14 年(1881)

大判錦絵

国周の光と影、仕掛け絵の散々



豊原国周「楽屋二階影評判」
「四世中村芝翫の大膳」「五世尾上菊五郎の久吉」
明治14年(1881) 大判錦絵

* 明かり障子の向こう、楽屋の様子は影で！



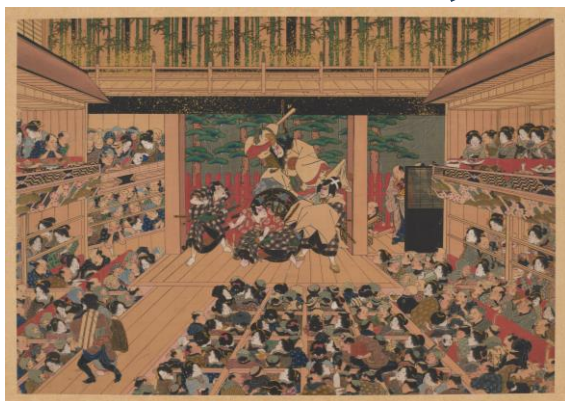
豊原国周「三世市川九蔵の直助権兵衛、三世片岡我童の田宮伊右衛門、五世尾上菊五郎の矢頭与茂七、小仏小平・お岩の霊」明治17年(1884) 大判錦絵

* 戸板返しの場合(仕掛けの場面)を仕掛け絵に！

③ 歌舞伎絵の極致！国貞「芝居町 新吉原 風俗絵鑑」一挙公開！



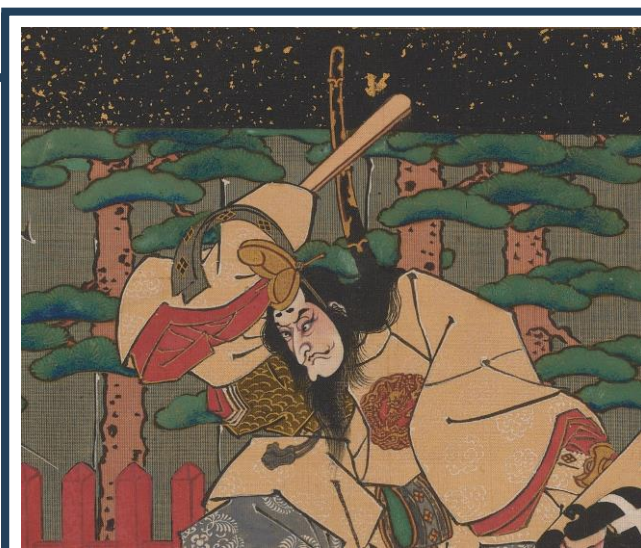
第一図 市村座 表掛



超絶細密画で歌舞伎の神髄を描く！

上質な絵具を用い、素材の質感までも再現する描写力は見事。芝居町と新吉原という二大歓楽街の一日を各6図で、描きつくす。無落款ながら、国貞の作と比定された肉筆浮世絵の傑作。

本展では「芝居町」6図を通期で一挙公開。



↑(広報用画像8) 三代歌川豊国(国貞)「芝居町 新吉原 風俗絵鑑」一帖のうち
第三図「菅原伝授手習鑑のうち車引の場」 絹本着色 江戸時代(19世紀)

《小特集》 蔦屋重三郎

版元・蔦屋重三郎が打ち出した、歌麿やその弟子たち、写楽周辺の絵師たちの作品を展示します。



(広報用画像 9) 栄松齋長喜「難波屋店先」間判錦絵三枚続 版元：蔦屋重三郎
寛政 4-5 年 (1792-93) 頃

* 灯笼に「奉納浅草観世音 願主 蔦屋重三郎」とあり！



本展注目の二大浮世絵師、国貞と国周

歌川国貞（三代豊国）[うたがわ・くにさだ]

(天明 6-元治 1/1786-1864)

江戸生まれ。姓は角田、名は庄蔵、のち肖造。幼くして初代歌川豊国に入門。画号は一雄斎、五渡亭、香蝶楼など、豊国襲名後は一陽斎など。父庄兵衛は、江戸本所五ツ目の渡船場を経営。

初筆は文化 5 年(1808)の合巻『鏡山誉仇討』、錦絵の上限作は文化 6 年 3 月とされる。国貞時代より晩年まで役者絵、美人画で活躍、特に五渡亭時代に三枚続や大首絵風の美人画に優品が多い。香蝶楼国貞の名では柳亭種彦の合巻『修紫田舎源氏』(1829~42)の挿絵が知られ、これを錦絵化した「源氏絵」は、国貞錦絵の売り物となる。弘化 1 年(1844)、二代豊国を称すが、今日では 3 代目に数える。錦昇堂から刊行された役者大首絵シリーズは画業の集大成。生涯に描いた作品数は全浮世絵師中、最大数量で、広重、国芳らと共に幕末浮世絵界を牽引した。

豊原国周[とよはら・くにちか]

(天保 6-明治 33/1835-1900)

江戸京橋に生まれる。姓は荒川。通称は八十八。はじめ長谷川派の豊原周信に師事し、役者似顔を学び、羽子板押絵の原図を制作。嘉永 1 年(1848)、三代豊国に入門。画号は一鶯斎、華蝶楼など。美人画・役者絵を得意とし、特に明治 2-3 年(1869-70)の人形町具足屋嘉兵衛を版元にした役者似顔大首絵シリーズにより、「役者絵の国周」として知られ、後世小島烏水によって「明治の写楽」と称せられた。また、明治中期の三枚続の大画面に一人の役者の半身像を描く斬新な構図を開拓したほか、写真の流行する時代の影響を受け、陰影法を用いるなど、明治浮世絵に新境地を開いた。83 回引っ越し、妻も 40 回以上かえたという奇行の持ち主。門人に楊洲周延。

ばいこうひやくしゅ ぐそくや
彌之助夫人・早苗愛玩の「梅幸百種」—五世菊五郎、国周、具足屋

「梅幸百種」はその名の通り五世尾上菊五郎（1844-1930、俳名：梅幸）の半身の舞台姿とコマ絵に俳句などを描いた大判 100 枚からなる大部で豪華な揃物。明治の名優が、十三世羽左衛門から四世家橋をへて五世菊五郎に至るまでの当たり役が選ばれた、菊五郎を語る上で欠かせない作。

浮世絵師・国周の集大成でもあり、菊五郎、国周、そして版元：具足屋（福田熊次郎）のトリオによる渾身の揃物。明治 26-27 年にかけてたった 2 年で完成している。

目録は役者絵も描く梅素薫（二代梅素亭玄魚）で、赤地に、菊五郎にちなんで菊の意匠が配される。

静嘉堂所蔵の本作は、目録付きで一冊の錦絵帖の表裏に 100 図全てが貼りこまれる。



岩崎早苗
『岩崎彌之助伝』より



五世尾上菊五郎
出典：国立国会図書館
「近代日本人の肖像」

五世菊五郎鼎足の岩崎夫妻

岩崎彌之助夫人の早苗（1857-1929）は後藤象二郎（1838-97）の長女で明治 7 年（1874）に彌之助に嫁ぐ。早年期にはフランス語を学ぶなど洋学を修め、傍ら和歌を作り、長唄を習い、観劇を愉しむなど彌之助同様に趣味が広い。

岩崎彌之助、早苗夫妻は五世菊五郎鼎足で、五世菊五郎に大磯の別荘地を提供している。また、錦絵帖の多くが五世菊五郎を描いたものである。

「梅幸百種」はその意味でも、国周、具足屋そして菊五郎の集大成であり、夫妻愛玩の錦絵帖を象徴する逸品！

特注・特別装丁か！

早苗愛蔵の「梅幸百種」は百図が一帖に収められ、開けば今摺ったかと思ふ程の美しさ！

見返し右下に朱印が貼ってあり
「画帖師／錦絵問屋／人形町具足屋」
具足屋に因んで甲冑のデザイン！！



「梅幸百種」見返しの具足屋印



「梅幸百種」より㊦天竺徳兵衛、㊧目録



「梅幸百種」より㊨弁天小僧菊之助、㊩おはつ

【報道に関するお問い合わせは】

◆静嘉堂文庫美術館 広報事務局（共同 PR 内 担当：三井）※メールでいただくと助かります。

E-mail: seikado-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F

◆静嘉堂文庫美術館 E-mail: press@seikado.or.jp（広報担当：大森）★展覧会担当学芸員：吉田恵理